

令和3年度 家庭の情報モラル推進部会 活動報告

1 部会の目的

情報モラル（特にスマートフォンやインターネットとの正しい関わり方）について、親子での対話の契機となるような資料を提供し、家庭での対話から情報モラルへの関心の高まりを促す。

2 取組の概要

(1) アドバイザー

	氏名	所属・職名等
1	板垣翔大	宮城教育大学 技術教育講座 講師

(2) 委員

	氏名	所属・職名等
1	増田順子	仙台市立中田小学校PTA 会長
2	都築健太郎	仙台市立向陽台小学校PTA 会長
3	千葉佳和	仙台市立折立中学校PTA 会長
4	鈴木寿幸	教育センター 指導主事
5	加藤篤洋	教育センター 指導主事
6	木村昌宏	学びの連携推進室 主任指導主事
7	鈴木香里	学びの連携推進室 指導主事
8	高橋祥浩	教育相談課 指導主事
9	土井清文	教育相談課 指導主事
10	勢藤芳弘 (事務局)	生涯学習課 主幹
11	遠藤嘉文 (事務局)	生涯学習課 主査

(3) 取組

情報モラルへの関心を高めることを目的に、親子の対話の契機となるような内容のリーフレットについて検討・作成し、仙台市立学校の義務教育課程の全児童生徒に配付した。また、リーフレットの活用状況について、抽出校を対象にアンケート調査を行い、次年度以降の取組の参考とした。

3 活動内容

- 7月15日(木) 第1回 「家庭の情報モラル推進部会」…リーフレット案の協議等
 7月下旬～10月下旬 「リーフレット」の内容等についての検討(電子メール等)
 11月初旬 「リーフレット」の確定・印刷
 11月下旬 「リーフレット」の各学校・子供相談支援センター等への配付
 11月下旬～12月中旬 「リーフレット」の児童生徒への配付
 12月中旬～1月中旬 「リーフレット」活用状況等についてアンケート実施
 ※抽出調査(小1～中3までの児童生徒及びその保護者)
 国見小学校・金剛沢小学校・蒲町小学校
 台原中学校・中山中学校・広瀬中学校
 1月27日(木) 第2回 「家庭の情報モラル推進部会」…次年度以降の取組等

4 アンケート結果・・・別添参照

5 アドバイザー・委員の意見・感想等

(1) 今年度の取組を振り返って

- ・委員やアドバイザーの意見がしっかり反映され、各課も協力して作成できてよかった。
- ・分かりやすいリーフレットを作成することができた。親子で対話していることが分かり、効果があった。
- ・リーフレットをきっかけに親子で対話しながら情報モラル教育をする取組は今後も続けていきたい。
- ・4～6年生をターゲットにして内容を組み立てたことはよかった。
- ・健康面とSNS等のリスクの2つに内容を絞ったことはよかった。
- ・SNSや個人情報の取扱いを伝えていくことは難しいが、少しずつ積み重ねることが大切である。
- ・先生方の関心も高くなっているので、授業でもリーフレットを使っていけるようにしていきたい。
- ・アンケートを親子で回答する形にしたのは、対話という面でもよかった。
- ・アンケートを全学年、保護者への対象を広げ、自由記述を設けたことはよかった。生の声を聞くことができ、次年度に向けたヒントも記載されていた。
- ・アンケート対象校をもう少し増やすことも考えられる。
- ・親子で対話できなかったことについて、その理由を聞く設問があってもよかった。
- ・リーフレット1枚で9学年分を対象とするのは限界があるのではないか。
- ・情報モラルに対して意識が低い保護者にどう見てもらうかが課題である。

(2) リーフレットの活用状況等についてアンケート結果から

- ・アンケートは対象4080人中426人、10.4%の児童生徒が回答しているものである。それを前提として結果を見る必要がある。
- ・アンケートの回答内容と学年の関係性を見ると、ターゲットを絞った4～6年生にはしっかり伝わったことが分かる。
- ・親子での回答を分析すると、「しっかり話した」と回答した児童生徒の保護者も「しっかり話した」と回答しており、親子間で差がないことが分かった。ルールに関する設問でも同様であった。
- ・親子で差があるのは、「もっと知りたいか」の設問であり、保護者はより詳しく知って子どもに丁寧に説明したいという意識の表れではないか。
- ・自由記述から次年度につなげられる意見があり、有効であった。

(3) 次年度のリーフレットについて

- ・次年度も家庭の情報モラル推進部会の活動として、リーフレットを作成していきたい。
- ・「親子の対話」を大切にしていくことは今後も基軸としていきたい。
- ・予算が可能であれば、小中を分けたり、下学年・上学年・中学生と分けたりするなど、対象を絞る方法は有効である。
- ・保護者用のリーフレットを作成することも考えられるが、保護者にはセミナー等を開催し、リーフレットを活用することも有効である。
- ・事務局の負担が大きいため、これまで作成したものをベースにアップデートしていく形がよいのではないか。その中で、小学校児童と中学校生徒への重点の置き方を隔年で変えていくことも考えられる。

(4) その他

- ・アンケートは、今回の方法でも十分機能している。次年度以降もウェブアンケートでよいのではないか。
- ・配布先は、今年度同様に子供未来局とも連携していく。特に、子供相談支援センターに配布することには意義がある。